

U.S. Indicators

発表日: 2019年5月16日(木)

米国 19年4月鉱工業生産はまた縮小

～自動車部門の調整が足かせとなり生産活動停滞～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

INDUSTRIAL PRODUCTION AND CAPACITY UTILIZATION

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率		生産能力
									全産業	製造業 (SIC)	
18/04	+0.9	(+3.8)	+0.4	+1.1	+4.1	+0.5	+0.5	▲1.5	+78.8	+76.6	+0.1
18/05	▲0.8	(+2.8)	▲0.8	+0.7	▲3.0	+0.1	▲0.8	▲7.1	+78.1	+76.0	+0.1
18/06	+0.8	(+3.4)	+0.7	+2.0	▲0.8	+2.1	+0.6	+6.2	+78.6	+76.5	+0.1
18/07	+0.4	(+3.9)	+0.4	+0.9	▲0.0	+1.2	+0.3	▲1.8	+78.8	+76.7	+0.2
18/08	+0.8	(+5.3)	+0.4	+2.2	+1.3	+1.5	+0.4	+2.9	+79.3	+77.0	+0.2
18/09	+0.1	(+5.4)	+0.0	+1.0	▲0.4	▲0.3	+0.1	+1.9	+79.3	+76.9	+0.2
18/10	+0.2	(+4.1)	▲0.1	+0.1	+2.6	▲0.6	▲0.1	▲1.9	+79.3	+76.8	+0.2
18/11	+0.5	(+4.1)	+0.2	+0.8	+2.7	▲1.1	+0.2	+0.6	+79.6	+76.9	+0.2
18/12	+0.0	(+3.8)	+0.6	+2.1	▲6.8	▲0.5	+0.8	+4.1	+79.5	+77.3	+0.2
19/01	▲0.4	(+3.6)	▲0.6	▲0.2	+0.8	▲0.3	▲0.8	▲7.2	+79.0	+76.7	+0.2
19/02	▲0.5	(+2.7)	▲0.5	▲1.0	+0.7	+0.6	▲0.3	+1.6	+78.5	+76.2	+0.2
19/03	+0.2	(+2.3)	▲0.0	▲0.4	+2.2	▲0.1	▲0.1	▲0.2	+78.5	+76.2	+0.2
19/04	▲0.5	(+0.9)	▲0.5	+1.6	▲3.5	+0.6	▲0.6	▲2.6	+77.9	+75.7	+0.2

(注)カッコ内は前年比

19年4月の鉱工業生産は、前月比▲0.5%（3月同▲0.0%）と市場予想の同0.0%を下回った（11月－3月合計0.5%p下方修正）。鉱業が前月比+1.6%と増加に転じた一方、公益が前月比▲3.5%（3月同+2.2%）と減少に転じたうえ、製造業が自動車の縮小により前月比▲0.5%（3月同▲0.0%）と市場予想の同0.0%を下回った（11月－3月合計0.3%p下方修正）。4月の生産活動は、自動車産業でのリストラやドル高、世界経済の減速等の影響により下ぶれた。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が▲3.1%（前月▲1.9%）、製造業生産は▲3.5%（前月▲2.1%）とマイナス幅を拡大した。ドル高や関税引き上げなどの影響を受けるなか、異常気象・自然災害、米自動車メーカーのリストラ等を背景に、モメンタムを失っている。

業種別では、木材製品、家具・関連製品、紙が拡大に転じたほか、一次金属、その他耐久財が加速した。一方、非鉄、一般機械、コンピューター・電子機器、航空機・その他輸送設備、食品・飲料・タバコ、繊維が減少に転じたうえ、加工金属、電気設備・部品、自動車・同部品が減少幅を拡大した。また、プラスチック・ゴム製品、印刷・同サポート、その他製造業が減少を続け、アパレル、化学、石油・石炭は減速した。

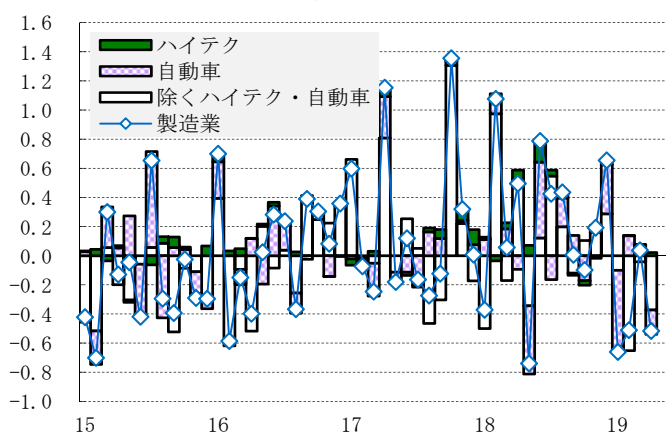
稼働率をみると、設備投資の増加による生産能力の拡大が続くなか、生産の縮小を背景に鉱工業全体が77.9%（前月78.5%）と低下し、市場予想78.7%を下回った。製造業も生産能力拡大、生産縮小によって76.2%（前月76.6%）と低下した。稼働率が80%を上回っている業種別は、紙パ、その他耐久財、加工金属の3業種にとどまった。前月から上昇した業種は、高い順に紙パ（85.1%：前月84.0%）、その他耐久財（80.5%：前月79.8%）、家具（75.5%：前月75.3%）、一次金属（72.9%：前月72.6%）、アパレル（61.4%：前月60.9%）と続いた。一方、前月から低下した業種では、加工金属が81.0%（前

月 81.5%)、プラスチックが 78.2% (前月 79.0%)、航空機・その他輸送設備が 77.1% (前月 77.9%)、一般機械が 76.4% (前月 78.4%)、自動車 that 75.2% (前月 77.2%)、電気設備・部品が 71.7% (前月 73.3%)、繊維が 71.5% (前月 72.3%)、コンピューター・電子機器が 70.7% (前月 71.4%)、非鉄が 67.1% (前月 67.3%) となった。なお、石油・石炭が 79.4% (前月 79.4%)、化学が 77.6% (前月 77.6%)、その他製造業が 60.2% (前月 60.2%) と前月と同水準だった。

四半期ベースで4月の鉱工業生産は、1-3月期比年率▲2.2%と1-3月期の前期比年率▲1.9%からマイナス幅を拡大した。内訳では鉱業が1-3月期比年率+4.2% (1-3月期前期比年率+2.6%) と加速した一方、製造業は1-3月期比年率▲2.7% (1-3月期の前期比年率▲2.5%) とマイナス幅を拡大したうえ、公益事業が1-3月期比年率▲7.3% (1-3月期前期比年率▲7.4%) と大幅な減少を続けた。ドル高や関税引き上げなどの影響を受けるなか、異常気象・自然災害、米自動車メーカーのリストラ等を背景に縮小している。

19年の生産活動では、国内需要の拡大に支えられるものの、高い水準のドルや貿易戦争によるコスト増加や先行き不透明感の高まりの影響を受け、製造業生産が+0.4% (18年+2.3%)、鉱工業生産が+1.3% (同+3.9%) に鈍化すると予想される。

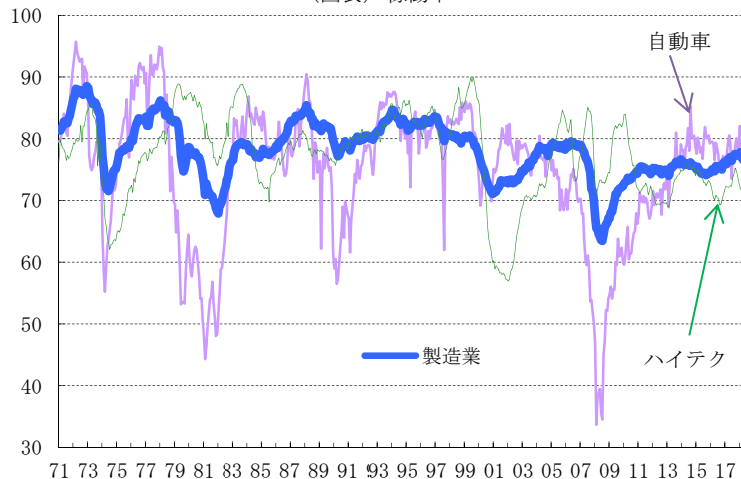
(%) (図表) 製造業生産 (前月比寄与度)



(出所) FRBデータより当社

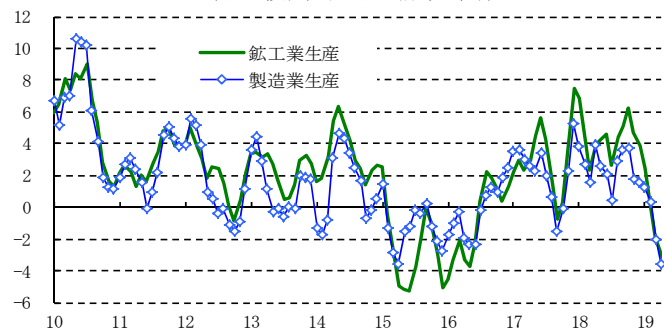
(年/

(%) (図表) 稼働率



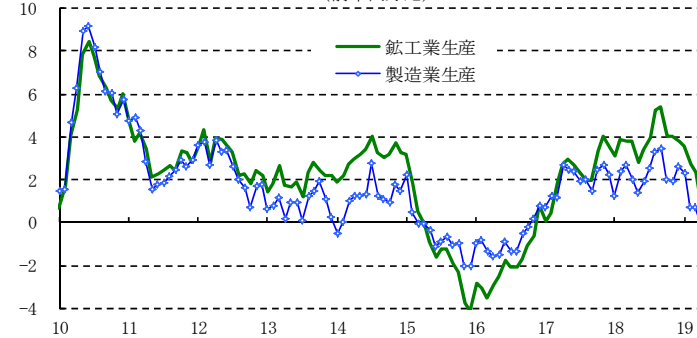
(出所) FRB

(%) 鉱工業・製造業生産 (3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率)



(出所) FRB

(%) 鉱工業・製造業生産 (前年同月比)



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

